


# 御前山ビオトープ通信

平成22年2月11日

第27号

編集： NPO「美しい田園21」 清野 

メール：[denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)

ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

## 目次

- 1 第3回育成作業を実施
- 2 間伐作業のポイント
- 3 今後の事業計画について

## 【案内図】



## 1 第3回育成作業を実施

数日前に雪が降り心配されましたが、2月9日（火）予定通り間伐作業を実施することになりました。

当日は、午後から雨模様という天気予報をくつがえし、晴天に恵まれましたが、やはり山間部の朝は冷え込みます。地元の皆さんが早朝から焚き火をして迎えてくれました。

9時過ぎには東京をはじめ遠くからの参加者を含めて60名近いボランティアが集合し、駐車場も満杯になりました。

挨拶、作業分担等の後、今回初めて「茨城森林クラブ」の皆さんに依頼して間伐作業の講習を受けることにしました。

今回は初参加者も多く、大半が間伐作業も初体験だったので、皆興味を持って参加しました。間伐作業についての全般的な説明の後、午前中は前回、数か月前に伐採して「葉枯れ乾燥」してあった木材の玉切りと運搬作業にかかります。なれない傾斜地での力作業に陽気も良くなってきて、汗をかいて大変でした。搬出した間伐材は、木道など今後のビオトープ整備に活用する予定です。

人数も多かったことから予定より早く搬出作業が終了したので、午後の予定だった伐採作業の実技講習を早めて午前中に実施することにしました。さすがに講師陣は慣れていて、予定した方向にぴたりと倒し、拍手が湧きます。

昼食は、地元の皆さんがオニギリや漬物、汁物などを用意してくれました。また、焚き火でサツマイモを焼き、火から取り出したばかりの熱い焼き芋も好評でした。



作業後



間伐実技講習

午後は各班に分かれて伐採作業です。せっかくの機会なので、チェーンソーの体験もしてもらいました。初めての人は最初は恐る恐るでしたが、大木が倒れる迫りに感動した様子でした。

ただ、かなり密植になっていたのので、かかり木が多く、押しやり引いたりした後処理に苦労していたようです。

午後の2時頃にはほぼ予定した面積の作業を終了し、木漏れ日が入るほどになって、見違えるほどスッキリとしました。夏には下草も生えてきて生態系は大きく改善されると期待されます。

ボランティアの皆さんには日常を脱して気持ちの良い体験ができたとは思いますが、慣れない山中での重労働で本当にご苦労様でした。

今回は焚き火での焼き芋が好評だったので、地元ではイノシシ丸焼き、アユ・鮭の塩焼き、山菜なども検討してくれるとのこと。楽しみにしましょう！！



## 2 間伐作業のポイント

今回は専門家に指導いただいたので忘れないようにポイント（チェーンソーの扱い方は除く）をメモしました。

- ・ ヘルメット、軍手、長靴、斜面を歩きやすい服装。あまりダボダボの服、首タオルは巻き込むことがあるので危険、タバコも厳禁
- ・ 伐採木は所有者や専門家に選定してもらう。最終的には植林時の半分くらいを残すが2割くらいづつ数回に分け年数をおいて間伐する。
- ・ 樹高の1.5倍の範囲を危険区域とし、他の班と離れて作業する。
- ・ 伐倒方向は、一般的に斜面の横か斜め下方。「かかり木」にならないように開いている方向へ
- ・ 木の周りを払い、ツル、枝がらみを処理し、作業足場だけでなく、移動場所も確保しておく
- ・ 方向を決めたら班全員に周知し、倒木方向に人がいないことを確認する。
- ・ 「受け口」は倒す方向から直径の3分の1くらい、反対から「追い口」を入れる前に声（又は笛）を出して再度安全を確認し、必ず「つる」を残す。
  - ・ 倒れ始めたら、チェーンソーを止めて安全な方向に離れる。
  - ・ 倒れない時は、クサビを打つ、ロープかチェーンで引く、それでもだめなら「つる」を片方切ってまわすなど
  - ・ かかり木になってどうしても倒れない場合は「つる」を全部切って、切り落とすか引くしかないが危険なので熟練者に限定する。
  - ・ 倒木は枝を払い定尺に切って処理したほうが次の作業の邪魔にならない。
  - ・ その際、チェーンソーのキックバック、ナタの空振りもあるので間隔をあけて作業する。



## 3 今後の事業計画について

作業後、今後の取り組みについて打ち合わせを行いました。

- ・ 子供たちの稲作体験として古代米栽培は継続する。今後は販売も視野に「黒米」だけとする。
- ・ 4月20日（火）にカタクリ、ニリンソウなどをビオトープ周辺に移植し「お花畑」を造成する。その前に現地調査を兼ねて自然観察会を行う。
- ・ 下ごしらえとして、田んぼ、移植地、アギナシ周辺などをロータリーで耕起する。
- ・ アギナシ、タコノアシなどの群落を拡大する方法、モニタリング手法などを検討する。
- ・ 御前山ダムや湛水敷地周辺の修景として、在来種の「山桜の苗」を大量に育てておいて、適時移植する。その手始めとして今年は現場から種子の確保を行い、数年かけて大きな苗まで育てる。（7月前後から）
- ・ 4月上旬に「御前山ダム環境センター」の総会を行う。

予算決算書、事業計画書作成、会計監査など、総会に向けた準備、会員の拡大と、関係機関への依頼を行う。

本年の概略の事業計画日程として

4月：移植 6月：田植え 8月：草刈 10月：稲刈  
11月：脱穀・収穫祭・間伐 2月：玉切り搬出



ニリンソウのお花畑